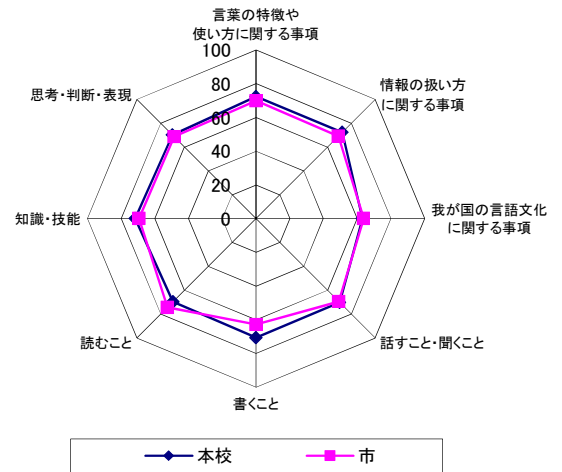


宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.4	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	72.4	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	63.2	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	70.2	69.5	71.5
	書くこと	70.6	62.8	67.1
	読むこと	69.7	74.4	73.7
観点別	知識・技能	71.7	69.4	71.9
	思考・判断・表現	70.2	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

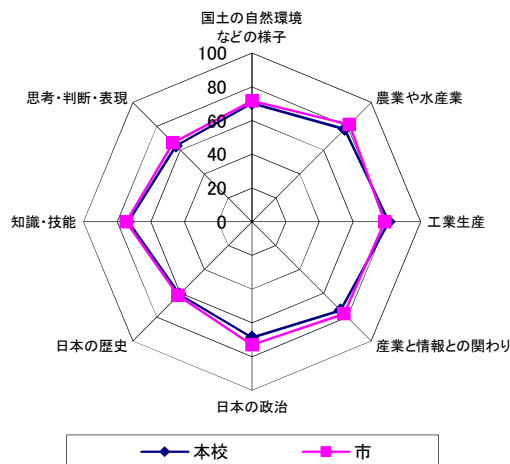
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は72.4%で、市と同程度である。 ○三字の熟語の成り立ちについて理解しているかを問う問題では、正答率が市を3.7ポイント上回った。 ○漢字を正しく書く問題の正答率は、3問とも市の平均を3～6ポイント上回った。 ●漢字を正しく読む問題の正答率は、3問とも市の平均を2～4ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字について、音読み・訓読みをしっかりと押さえ、漢字の成り立ちを確認したり、書き順を丁寧に指導したりする。また、漢字の意味を理解したり、部首を覚えたりすることで、漢字の知識を増やしていけるようにする。 ・一人一台端末を活用した学習が増え、未習の漢字でも変換して活用する児童が増えていることが考えられる。「書く」大切さを指導しつつ、国語以外の学習でも、漢字を書いたり、読んだりする機会を設けていく。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は72.4%で、市と同程度である。 ○情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いているかを問う問題では、正答率が市を5.9ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「文章中の言葉を使って」や「○字以上、○字以内」など、条件にあった内容で表現させることで、情報の中からキーワードを見つけたり整理したりする力を身に付けさせていく。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は63.2%で、市と同程度である。 ○語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解しているかどうかを問う問題の正答率は、市と同程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元ごとに語句の意味調べを行うなど、語句の由来に関心をもち、語彙を増やしていけるようにする。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は70.2%で、市と同程度である。 ○インタビューの内容を聞き取り、話の内容を捉えたり、意図に応じて質問を工夫したりしているかを問う問題の正答率は、市と同程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語や学級活動での話し合い活動、総合のインタビュー活動を通して、自分が聞こうとする意図や相手に応じて、話の内容を工夫する力を身に付けさせていく。 ・聞き取ったメモや箇条書きの文章を報告用の文章に書きかえる活動をするなど、相手や目的に応じた文章を表現する力を高めていく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は70.6%で、市を7.2ポイント上回った。 ○条件に合わせて文章を書く問題の正答率は、「指定された長さ」が12.1ポイント、「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている」が13.7ポイント、「自分の意見とその理由を明確に書いている」が7.9ポイント、「予想される反論とそれに対する意見を書いている」が6.1ポイント上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や活動のたびに、ふり返りを書いてきたことが、児童の書く力につながっていると考えられる。今後も、国語の作文指導以外の場で、文章を書く経験をさせていきたい。その際、段落や長さを指定するなど、条件に合った文章を書く力を伸ばしていく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は69.7%で、市を4.7ポイント下回った。 ●文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているかどうかを問う問題について、正答率は、市を6.3ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動や会話から、心情の変化を読み取らせていく。その際、感想や疑問に思ったことなどを交流させ、文章への関心を持たせることで、細かな部分を読み取る意欲へとつなげる。また、学校や家庭で音読や長文のプリントに取り組みさせることで、初見の長文の読み取りへの抵抗をなくしていきたい。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

領域別	観点別	本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	70.3	71.6	67.5
	農業や水産業	77.6	81.5	82.1
	工業生産	81.1	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	74.3	77.2	68.2
	日本の政治	68.8	73.1	77.9
	日本の歴史	60.9	62.0	65.8
観点別	知識・技能	73.4	74.6	74.5
	思考・判断・表現	63.7	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

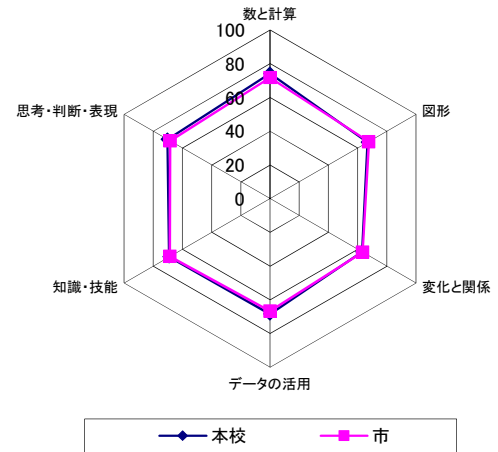
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は70.3%で、市と同程度である。 ○日本周辺の海洋や周辺国の位置や国旗を問う問題では、市と同程度の正答率であった。 ○生活と自然環境の関連を問う問題では、修学旅行での学習経験もあり高い定着度が見られた。 ●地図資料で示された山地や河川などの名前や位置などの定着に不十分さが見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳を使って地形や川、山地などの位置や名前を確認したり、練習問題を行ったりして、知識が定着する場を設定する。 ・森林と国民生活の関連をまとめた図を使って特徴を選んだり、その根拠を説明したりする場を確保し、資料に着目して考える力を充実させる。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は77.6%で、市の81.5%と比べ3.9ポイント低い。 ○学習田での学習経験もあり、米づくりに関する知識の定着は高い。 ●地図資料から様々な農産物と産地の特徴を考える問題や用語(地産地消)と人々の活動とのつながりを問う問題では課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳を使って農産物と主な産地を確認したり、気候や地形との関連を確認したりする場を確保する。 ・学習した用語を確認したり、その考え方が使われている身近な事例を紹介させたりするなど、学習と生活のつながりに気付かせるようにする。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は81.1%で、市の78.8%と比べ2.3ポイント高い。 ○日本の工業生産の特徴を会話形式の問題に当てはめる問題では、市より高い結果になったが、伸び代がある。 ●複数解答を指示した問題で、条件不足の解答を記入した児童の割合が市よりやや多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会話形式の問題だけでなく、工業生産と国民生活の関連をまとめた図を使って特徴を選んだり、その根拠を説明したりする場を確保し、資料に着目して考える力を充実させる。 ・問題の条件を見落とさないように、問題文を最後まで読み取る習慣を高める。
産業と情報との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は74.3%で、市の77.2%と比べ2.9ポイント低い。 ○メディアの特徴を問う問題では、高い定着度がある。 ●情報を生かした産業(コンビニエンスストア)の特徴を示した図から考える問題では課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図に示された矢印の意味を考えたり、特徴を示した文章から適切なものを選んだりする場を確保し、資料に着目して適切に判断する力を高める。
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は68.8%で、市の73.1%と比べ4.3ポイント低い。 ●政治と国民生活とのつながりを示した図から考える問題では課題が見られた。 ●税金や国民審査、国民投票など用語の意味を問う問題では課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・政治と国民生活の関連をまとめた図を使って特徴を選んだり、その根拠を説明したりする場を確保し、資料に着目して考える力を充実させる。 ・練習問題を繰り返すことで、用語の意味を確実に理解させる。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は60.9%で、市と同程度である。 ○歴史上の人物に関連した主な政策やその意図について、よく理解している。 ●様々な資料から時代ごとの文化的特徴を考える問題に課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図資料を根拠に特徴を選んだり、その根拠を説明したりする場を確保し、資料に着目して考える力を充実させる。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	74.2	71.8	76.2
	図形	66.8	67.7	67.8
	変化と関係	63.1	63.4	62.7
	データの活用	68.4	66.7	61.5
観点別	知識・技能	69.1	68.6	70.7
	思考・判断・表現	70.3	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

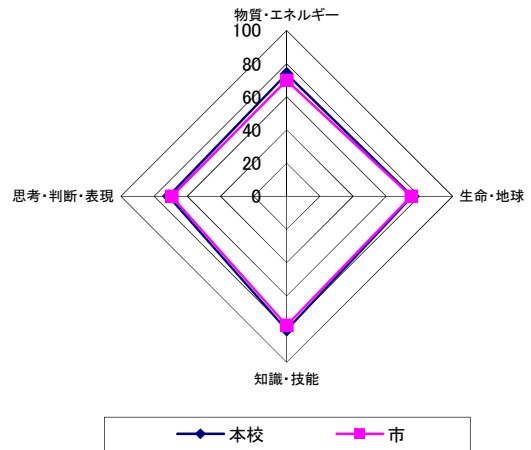
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、74.2%で、市と同程度である。 ○思考力を問う設問の正答率は、全ての設問で市の平均を大きく上回っている。 ●分数の除法の文章問題にあった式を選ぶ設問で、約4ポイント市の平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算プリントや計算ドリルでの反復学習を継続して行い、基本的な四則の計算技能を高めていく。加えて、小数や分数を含む計算での誤答がなくなるよう、位や分母・分子に着目するよう指導していく。 ・文章問題を考える時には、図を用いて考えたり、簡単な数に置き換えて考えたりするなど、値を求めるための手順を丁寧に確認していくことで、式の意味を理解できるようにする。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、66.8%で、市と同程度である。 ○三角柱の展開図を組み立てたときに重なる辺の長さを問う設問で、約8ポイント市の平均を上回った。 ●半円と四分の一の円を組み合わせてできる図形の面積を説明する思考力を問う設問で約5ポイント、線対称な図形の、対称な軸が何本あるか問う設問で、約11ポイント市の平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正多角形や角柱・円柱など、日常では出会いにくい図形について、算数教材を有効に活用して、その形や特徴を理解することができるようにする。 ・線対称・点対称な図形について、手元で操作できるような具体物やICTを用いて、線を引いたり、折り曲げたり、回転させたりする活動を通して、その性質を理解することができるようにする。
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、63.1%で、市と同程度である。 ○時速を秒速や分速に直す設問で、約3ポイント市の平均を上回った。 ●割合を問う設問で、約2ポイント市の平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題を考える時には、基準量、比較量、割合の関係を丁寧に確認し、正しい読み取りができるよう引き続き指導する。朝の学習や宿題で定期的に割合に関する問題に取り組み、知識の定着を目指す。 ・日常の事象や具体的な問題場面を設定することで、児童がイメージしやすくなり、「考えたい」と思うような場면을意図的に設定し、主体的に学習に取り組めるようにする。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、68.4%で、市と同程度である。 ○全ての設問で、市の平均と同程度か上回った。 ●帯グラフを読み取って説明する設問では、市の平均と同程度であるが、正答率が33.3%と正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなデータやグラフの読み取りを行い、読み取ったことをまとめたり、友達と話し合ったりしながら見方や考え方を広げる活動を充実させる。 ・理科や社会など他教科においてもデータやグラフを読み取る活動を行うことで、それらに触れる機会を増やし、データやグラフを正しく読み取る力を育成していく。

宇都宮市立雀宮中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	73.8	69.9	67.8
	生命・地球	75.6	75.1	73.7
観点別	知識・技能	80.5	77.8	78.4
	思考・判断・表現	71.2	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、73.8%であり、市の平均を3.9ポイント上回った。 ○ほとんどの設問で市の平均を大きく上回った。特に、思考力を問う設問の正答率は、全て市の平均を上回っている。 ●炭酸水から出る泡が二酸化炭素であることを問う設問で、5.6ポイント市の平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの人数を可能な限り少なくしたり、回数を重ねる中で確実に全員が実験を行えるよう配慮したりすることで、個別あるいは少人数での実験方法を工夫し、技能の習得や体験に基づいた知識の定着を図るようにする。 ・プリントやAIDリル等で復習した内容についての正答率が高いことから、今後も継続的に復習の機会を取り入れ、基礎的な知識の定着を図るようにする。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ・領域の正答率は、75.6%であり、市の平均と同程度である。 ○知識を問う全ての設問で市の平均を上回った。 ●実験結果から部屋の換気の頻度を分析する問題で6.9ポイント、観察した月の様子から時刻を推測する設問で8.6ポイント、いずれも思考力を問う設問で市の平均を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを自分の経験や日常生活と関連付けて考えられるような授業を展開していくことで、知識の定着に加えて、知識を活用する力を育成していく。 ・明確な課題の提示あるいは仮説の設定、実験の計画から考察までをセットにした構造的な学習を繰り返すようにし、主体的に取り組めるようにすることで、より一層の思考力の育成、知識の着実な定着を図る。

宇都宮市立雀宮中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
表現力向上に向けた一人一台端末の活用の工夫	調べる、まとめる、伝える学習や学習内容の習熟における活用	国語の「書くこと」の領域に関して、領域の正答率は市よりも高い。 アンケートの調査結果から、3年生以上の「パソコンを使って、相手に分かりやすく自分の考えや調べたことを伝えることができる」の設問の肯定割合は、市と同程度または市より高い。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

一人一台端末を効果的に使っていくことを通して、表現力の育成を図る。様々な教科の学習の中で、ゴールまでの見通しをもたせ、情報を調べて分かったことを一人一台端末を活用してまとめる活動を計画的に取り入れる。また、授業中、一人一台端末を活用してまとめたことをもとに話し合う活動を意図的に位置付け、自分の考えを伝えることができるようにする。